

# 「官民共創による地域・社会課題解決、新規事業創出支援事業」自治体向けワークショップ

8月に実施したセミナーでは、地域・社会課題が多様化・複雑化する中、自治体単独での課題対応が困難になっており、地域で持続的に課題解決を行うためには、官民が連携して、地域・社会課題解決と収益性の両立を目指す取組(地域と企業の持続的共生≒CSV経営)を促進し、地域経済の活性化を実現する必要がある、ということについて、ソーシャル・エックス共同代表伊藤大貴氏による講演を実施しました。今回は、それを実際どのように進めていけばよいか、九州内の自治体の方にお集まり頂き、ワークショップ形式で、自治体が抱える社会課題を、企業に発信するために磨き上げる、社会課題の「言語化」についてご体験頂きました。

## ◆ワークショップ(2023年10月26日・会場 GROWTH1)

### I.「社会課題の言語化とは」

- セミナーの振り返り
- 社会課題の「言語化」とは
- 事例紹介
- 言語化例題
- 発表、意見交換

講師



(株)ソーシャル・エックス  
共同代表 PR/GR Director  
伊佐治幸泰氏 志賀久美子氏

### II.「社会課題の言語化ワークショップ」

～参加自治体が持ち寄った4つの課題～

- 地元企業と開発した、大雨時の水害対策のための樋門の遠隔操作システムの全国展開
- 保育士業務の魅力向上、モチベーションアップ、離職防止
- 大規模イベント会場の開業を活かした、地元にお金が落ちる仕組み作り、地域経済の活性化
- 部活動の地域移行による地域人材活用、スポーツや文化活動の受け皿や担い手の確保

ファシリテーター



(株)ソーシャル・エックス  
共同代表 PR/GR Director シニア・マネージャー  
伊佐治幸泰氏 志賀久美子氏 木村亮太氏

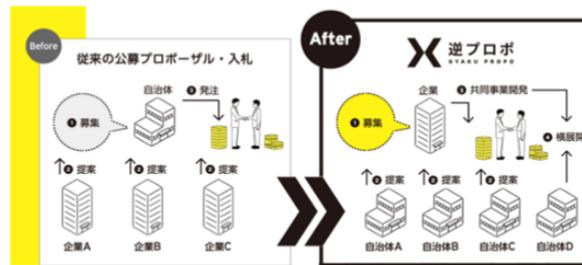
## ◆参加者からのコメント等

- ◎問題の本質を捉えていて、どこに課題があるのかを改めて気付かせてくれた。
- ◎少数の自治体の参加になっていたため、密に意見交換ができたことが良かった。次年度も実施される予定があればお声かけいただけるとありがたいです。
- ◎解決ということを念頭に進めなくてもよいというのは、心のつかえがとれた気がしました。
- ◎未開地の九州にもいろいろな課題の源泉、民間との取り組みの可能性が多くあることに確信が持てました。
- ◎各自自治体が課題を共有し、かつ、課題の本質にせまっていく体験がとても新鮮でした。
- ◎当初はどのような落とし所になるのか疑問があったが、他の自治体の方々も含め、様々な側面から意見交換やアドバイスを受けることが出来、予想していた以上の満足感を得ることが出来た。
- ◎他市の事例や、今までにない視点からの意見が多く、大変参考になりました。どの市の課題も、本市と共通する内容であり、意見交換できて有意義でした。
- ◎課題を通し、考えることで発想の転換によりプラスに出来そうな事案になりそうで、考えが広がり楽しくなりました。
- ◎他自治体からの課題も含めて、自分の課題の捉え方、見方、考え方が広がった気がしました。今後の考え方の参考にさせていただきたい内容ばかりでした。  
※原文のまま記載

自治体も企業も、最初は相手が何を望み、自身が何を解決してほしいかわかりません。まずはどちらか片方から、それを解像度高く相手に伝えるところからスタートです。

### 企業から

企業がテーマとなる社会課題を設定し、それに対して提供できるリソースを提示。関心ある自治体が手を挙げる。



### 自治体から

自治体が企業と共に解決したい社会課題と、それに対して提供できるリソースおよびビジネス有効性を提示。関心ある企業が手を挙げる。



SOCIALX

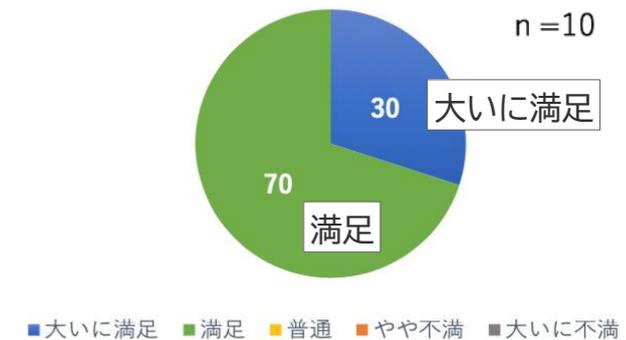
© Copyright 2022 SOCIALX All rights reserved.



当日の様子(GROWTH1)

出所:(株)ソーシャル・エックスの講義資料をもとに作成

### ワークショップの満足度 (%)



## ◆参加者(4自治体・10名)

- 直方市 産業建設部商工観光課
- 飯塚市 行政経営部総合政策課、教育部教育総務課、行政経営部業務改善・DX推進課
- 佐賀市 政策推進部企画政策課
- 鳥栖市 政策部総合政策課

### WSを通じた官民共創についての考えの変化 (割合: %) n = 10

